

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number : 2002-087443

(43) Date of publication of application : 27.03.2002

---

(51) Int.Cl.

B65D 33/08  
B65D 33/38

---

(21) Application number : 2000-281825

(71) Applicant : TOPPAN PRINTING CO LTD

(22) Date of filing : 18.09.2000

(72) Inventor : SUGIYAMA MORIHIRO  
SAKAE KENJI  
MAEDA TOSHIYUKI

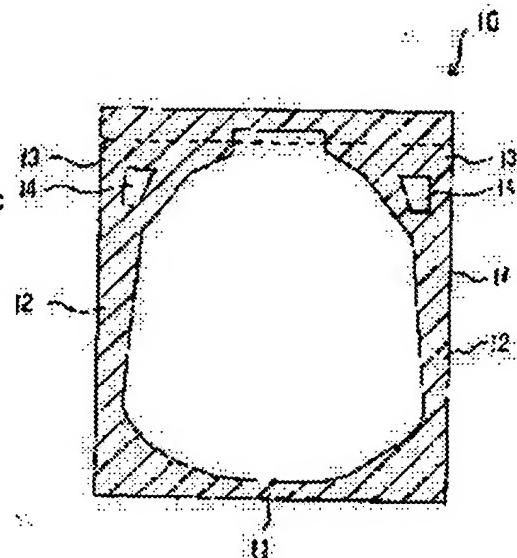
---

## (54) PACKAGING BAG

### (57) Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a refill packaging bag which is excellent in pour-out ability, has improved in openability and easiness to pour out and is inexpensive in a manufacturing cost.

**SOLUTION:** The packaging bag comprises two synthetic resin films serving as a surface and a rear wherein a barrel (17) is constituted of a base seal (11) and two lateral seals (12). Wide seals (13) which enter inwardly in relation to each other are formed on a part of the two lateral seals (12). Finger hook holes (14) are opened on the two wide seals.



---

## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or

[application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (JP)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-87443

(P2002-87443A)

(43) 公開日 平成14年3月27日 (2002.3.27)

(51) Int.Cl.  
B 65 D 33/08  
33/38

識別記号

F I  
B 65 D 33/08  
33/38J-TOKU (参考)  
3 E 0 6 4

審査請求 未請求 請求項の数 7 OL (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2000-231825(P2000-231825)

(22) 出願日 平成12年9月18日 (2000.9.18)

(71) 出願人 000003193  
凸版印刷株式会社  
京都府台東区台東1丁目5番1号  
(72) 発明者 杉山 守広  
京都府台東区台東1丁目5番1号 凸版印  
刷株式会社内  
(72) 発明者 栄 貴治  
京都府台東区台東1丁目5番1号 凸版印  
刷株式会社内  
(72) 発明者 真坂 優之  
京都府台東区台東1丁目5番1号 凸版印  
刷株式会社内

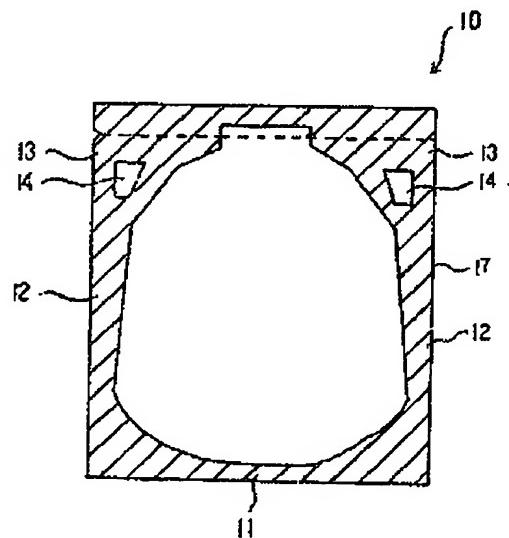
最終頁に続く

(54) [発明の名稱] 包装袋

## (57) [要約]

【課題】注出機能性が良好で開口性や注ぎ出し易さを向上させ、かつ、製造費用の廉価な詰め替え用の包装袋を提供すること。

【解決手段】表裏2枚の合成樹脂フィルムからなり、底部シール(11)と2本の側部シール(12)で胴部(17)を構成する包装袋の、2本の側部シール(12)の一部に互いに内側に入り込んだ幅広シール部(13)が形成され、該2本の幅広シール部には、指掛け孔(14)が穿設されている。



(2)

特開2002-87443

1

2

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】表裏2枚の合成樹脂フィルムからなり、底部シールと2本の側部シールで胴部を構成する包装袋の、2本の側部シールの一部に互いに内側に入り込んだ幅広シール部が形成され、該2本の幅広シール部には、指掛け孔が穿設されていることを特徴とする包装袋。

【請求項2】前記胴部を構成する包装袋の天部中央に、2本の注ぎ口側部シールを有する注出部となる注ぎ口が突出して設けられていることを特徴とする請求項1記載の包装袋。

【請求項3】前記2本の幅広シール部に穿設された指掛け孔は、互いに左右対称に設けられていることを特徴とする請求項1又は2記載の包装袋。

【請求項4】前記指掛け孔を側部シールの中央寄りに位置させたことを特徴とする請求項1、2又は3記載の包装袋。

【請求項5】前記側部シールのシール帽は、底部シール近傍のシール帽よりも天部シール近傍のシール帽を広く設定したことを特徴とする請求項1、2、3又は4記載の包装袋。

【請求項6】前記胴部に設けられた幅広シール部と、前記注出部に設けられた注ぎ口側部シールとが、追続して設けられている包装袋において、胴部の垂直方向の邊縁と、幅広シール部の内側寄り先端とが交差してなす角度αが、 $10^{\circ} \sim 75^{\circ}$ の範囲にあることを特徴とする請求項2、3、4または5記載の包装袋。

【請求項7】前記胴部を構成する包装袋の天部中央に突出して設けられた注出部となる注ぎ口は、先端に行くに従い細くなる先細り形状としたことを特徴とする請求項2、3、4、5又は6記載の包装袋。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、内容物の注ぎ出しを容易にした注出口を備えた包装袋に関するもので、特に、粘度の高い液体をはじめとする液体全般、粉体、粒状体等の内容物を収納し、詰め替え用としても適した包装袋に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】従来、シャンプー、食器洗い用洗剤などの液体を、ポンプで適量排出して使用するポンプ式容器が多く用されている。そして、近年では、資源の節約からポンプ式容器の内容物がなくなっていて容器を廃棄することなく、詰め替え専用の包装袋に充填されている内容物を空になったポンプ式容器に詰め替えて、該ポンプ式容器を回りも再使用することが行われている。

【0003】この詰め替え用の液体を収納する包装袋として、例えば、図4に示すように表裏2枚の合成樹脂フィルムの周縁を、注出口通路を除いてシール51した後、この注出口通路53を切断aして開口するという形式の包装袋や、図5に示すような表裏2枚の合成樹脂フ

ィルムの周縁をシール51し、その周縁の一部に、表裏2枚の合成樹脂フィルム間に合成樹脂製の中空円筒状の口栓体56を埋設して突起状注出部を設けた包装袋などが用いられている。

【0004】前者の包装袋は、注出時には包装袋が液体によって膨らもうとするため、注出口通路が引っ張られて閉じる方向の力が働き、注出口通路の内面同士が密着して注出口通路が閉塞し易い傾向にあるため、液体が出てにくく、手等で押さえ絞り続けてないと液体を効率良く注出できない。残置が少なくなると包装袋からの注出が困難になる。包装袋に付着する残液量が多く内容物の無駄が出るなど、注出機能性に問題がある。また、注出時に包装袋の胴部を押してしまい、内容液が一気に飛び出してしまうという現象も発生することがある。

【0005】後者の包装袋は、前述の注出機能性は改良されるものの、軟質の合成樹脂フィルムに合成樹脂製の成形物を取り付けることになり、また、内容物の性状によっては口栓体の径を適當なものに合わせねばならず、手間、費用、および形状の制約等の問題がある。

## 【0006】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、合成樹脂フィルム製の特に詰め替え用の包装袋に関する以上のような問題点に着目してなされたもので、注出機能性が良好で開口性や注ぎ出し易さを向上させ、かつ、製造費用の廉価な詰め替え用の包装袋を提供することを課題とする。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】本発明の請求項1の発明は、表裏2枚の合成樹脂フィルムからなり、底部シールと2本の側部シールで胴部を構成する包装袋の、2本の側部シールの一部に、互いに内側に入り込んだ幅広シール部が形成され、該2本の幅広シール部には、指掛け孔が穿設されていることを特徴とする包装袋である。

【0008】このように、2本の側部シールの一部に互いに内側に入り込んだ幅広シール部が形成され、該2本の幅広シール部には、指掛け孔が穿設されているので、指掛け孔に指を掛けて2つに折り曲げるように力を加えると、包装袋の表側のフィルムと裏側のフィルムは互いに反発するように開口し易く、その部分から収納物である液体が逸出する。なお、指掛け孔は必ずしも全面貫通している必要はなく、孔でなく、一部繋がっていても構わない。

【0009】また、請求項2の発明は、請求項1の発明において、前記胴部を構成する包装袋の天部中央に、2本の注ぎ口側部シールを有する注出部となる注ぎ口が突出して設けられていることを特徴とする包装袋である。

【0010】このように、包装袋の天部中央に、2本の注ぎ口側部シールを有する注出部となる注ぎ口を突出させておくことにより、収納されている液体は注ぎ口から流出する。

(3)

特開2002-87443

3

【0011】また、請求項3の発明は、請求項1又は2の発明において、前記2本の幅広シール部に穿設された指掛け孔は、互いに左右対称に設けられていることを特徴とする包装袋である。

【0012】このように、2本の幅広シール部に穿設された指掛け孔が、互いに左右対称に設けられていることにより、注ぎ口の開口状態が安定する。

【0013】また、請求項4の発明は、請求項1、2又は3の発明において、前記指掛け孔を側部シールの中央寄りに位置させたことを特徴とする包装袋である。

【0014】このように、指掛け孔を側部シールの中央寄りに位置させたので、片手で包装袋を持っても包装袋がくびれることなく液体を容易に注ぎ出すことができる。

【0015】また、請求項5の発明は、請求項1、2、3又は4の発明において、前記側部シールのシール幅は、底部シール近傍のシール幅よりも天部シール（注ぎ口）近傍のシール幅を広く設定したことを特徴とする包装袋である。

【0016】このように、側部シールのシール幅は、底部シール近傍のシール幅よりも天部シール（注ぎ口）近傍のシール幅を広く設定したことにより、注ぎ口の開口状態はより安定する。

【0017】また、請求項6の発明は、請求項2、3、4又は5の発明において、前記胴部に設けられた幅広シール部と、前記注出部に設けられた注ぎ口側部シールとが、逆流して設けられている包装袋において、胴部の垂直方向の縫縫と、幅広シール部の内側寄り先端とが交差してなす角度αが、10～75°の範囲にあることを特徴とする包装袋である。

【0018】このように、胴部の垂直方向の縫縫と、幅広シール部の内側寄り先端とが交差してなす角度αが10～75°の範囲にあると、注ぎ出した際の残存量をより低減させることができる。

【0019】また、請求項7の発明は、請求項2、3、4、5又は6の発明において、前記胴部を構成する包装袋の天部中央に突出して設けられた注出部となる注ぎ口は、先端に行くに従い細くなる先細り形状としたことを特徴とする包装袋である。

【0020】このように、胴部を構成する包装袋の天部中央に突出して設けられた注出部となる注ぎ口の形状を先端に行くに従い細くなる先細り形状としたので、包装袋をガラスびんやプラスチックボトルの頸部の開口に差し込むことが容易になる。

【0021】

【発明の実施の形態】本発明の包装袋を一実施形態に基づいて以下に詳細に説明する。図1は本発明の包装袋の一実施形態を示す説明図であり、図2は本発明の包装袋の別の実施形態を示す説明図である。

【0022】本発明の包装袋は、例えば図1に示すよう

4

に、表裏2枚の合成樹脂フィルムからなり、底部シール（11）と2本の側部シール（12）で胴部（17）を構成する包装袋の、2本の側部シール（12）の一部に互いに内側に入り込んだ幅広シール部（13）が形成され、該2本の幅広シール部（13）には指掛け孔（14）が穿設されているものである。

【0023】包装袋に使用する合成樹脂フィルムとしては、二重延伸ナイロンフィルム（ONY）／板状低密度ポリエチレン（L-LDPE）、ONY／アルミニウム箔（A1）／L-LDPE、ポリエチレンレフタレートフィルム（PET）／A1／L-LDPE、PET／A1／ONY／L-LDPE等の一様的に公知の複合フィルムが使用されるが、ヒートシール適性、耐内容物性、開封性等を総合的に勘案して決定すれば良い。

【0024】包装袋を形成させるには、一般的に公知の製造機等を用いて、2枚の合成樹脂フィルムのシーラント層同士を相対向させて底部シール、2本の側部シールを行い、所望の大きさの包装袋とする。包装袋の天部を開口し、液体シャンプー等の内容液を充填後、天部を密封シールすることにより内容液が充填された包装袋となる。

【0025】内容液が充填された包装袋を開封する際には、開封予定箇所の周辺のシール部に開封用ノッチを設けることで開封開始位置、開封方向がわかり易くなる。その他、開封方向に沿ってミシン目を設けること、半切れ縫を設けること、開封方向に延伸されたフィルムを用いること等適宜の手段を用いることにより、開封性が改善できる。

【0026】本発明の包装袋においては、2本の側部シール（12）の一部に互いに内側に入り込んだ幅広シール部（13）を形成させ、この幅広シール部には指掛け孔（14）を穿設させておくことが重要である。

【0027】これは、包装袋の胴部に充填されている液体は、袋の前後に力が加わるため、幅広シール部（13）が内側に入り込む状態になり易く、特に、側部シールのシール幅を底部近傍に比較して上部近傍を広く設定することで、側部シールは内側に入り込む状態になり易い。このため、指掛け孔（14）をつまむことで合成樹脂フィルムは縦方向に輪を描くように拉張り、一定の注ぎ口開口が確保され、また、縫縫が安定しているため、包装袋の胴部を押さえて注出する必要がない。同様に、液体が少なくなても裏裏の合成樹脂フィルム同士が密着することがないので、最後まで液体の注出が可能、かつ、容易である。

【0028】また、2本の幅広シール部（13）に設けられる指掛け孔（14）は、互いに左右対称に配置すると注ぎ口の開口状態が安定して好ましい。指掛け孔（14）を側部シールの中央寄りに位置させると、片手で包装袋を持っても包装袋がくびれることなく、液体を容易に注ぎ出すことができる。

(4)

特開2002-67443

5

5

【0029】図2は、本発明の包装袋の別の実施形態を示す説明図で、これは胴部(17)を構成する包装袋の天部中央に、2本の注ぎ口側部シール(25)を有する注出部(27)となる注ぎ口(26)が突出して設けられているもので、胴部に設けられた幅広シール部(13)と注出部に設けられた注ぎ口側部シール(25)とが連続して設けられている包装袋である。

【0030】包装袋の天部中央に突出状の注出部が設けられているので、注出位置が明確になり、ガラスびんやプラスチックボトル等の詰め替え容器の開口(30)が扱い易くなる(図3参照)。

【0031】胴部の垂直方向の邊縁と幅広シール部の内側寄り先端とが交差してなす角度 $\alpha$ が、10°~75°の範囲にあると、注ぎ出した際の液体の残存量をより低減させることができる。

【0032】また、包装袋の天部中央に突出して設けられた注出部となる注ぎ口(26)は、先端に行くに従い細くなる先細り形状とすることにより、包装袋をガラスびんやプラスチックボトルの頸部の開口に容易に差し込むことができる。

【0033】より具体的には、図2において、Aは20~40mm、Bは30~80mmに設定すると、包装袋をガラスびんやプラスチックボトルの頸部の開口に容易に差し込むことができる。

【0034】

【実施例】以下実施例により本発明をさらに詳細に説明する。

(実施例1) 図2において、包装袋の全長：220mm、包装袋の全幅：150mm、胴部長さ：185mm、注出部長さ：35mm、胴部との境界での注出部の幅：55mm、注出部の先端での幅：35mm、側部シールの底部シール寄りの最小幅：6mm、注出部の先端から切断線(注ぎ口縫)までの長さ：15mm、側部シールの天部寄りの幅広シール部との境界での幅：10mm、胴部の垂直方向の邊縁と幅広シール部の内側寄り先端とがなす角度 $\alpha$ ：45°。以上のような寸法を有する包装袋に500mlの内容液である液体シャンプーを充填して、液体シャンプーの注出性を確認した。\*

\* 【0035】すなわち、注ぎ口縫より包装袋をカットすると注ぎ口が開口した。また、両方の指掛け孔を指で引っかけ、つまみ上げることにより図3に示すように注ぎ口開口部が安定した。注出部を先細り形状にしたことにより、プラスチックボトル等の容器に差し込むことが可能であり、注ぎ口の長さが20mmあるので、容器から抜ける心配も認められなかった。包装袋の肩部もシールされているので、肩部に入り込もうとする内容液は無く、注出は容易であった。

【0036】

【発明の効果】上記のように、本発明の包装袋によれば、注ぎ始めから注ぎ終わりまで、注出口を開口状態に保つことができ、残液量も少ない。また、成形品を取り付けたり、成形工程を必要としないので、比較的安価な包装袋が作製できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す、正面説明図である。

【図2】本発明の別の実施例を示す、正面説明図である。

【図3】液体を充填した本発明の包装袋から、液体を容器に詰め替えている状態を示す説明図である。

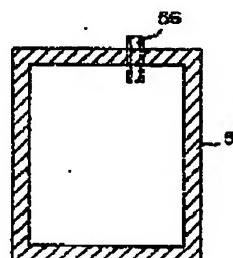
【図4】包装袋の従来例を示す説明図である。

【図5】包装袋の別の従来例を示す説明図である。

【符号の説明】

- 10. 20 …… 包装袋
- 11. 21 …… 底部シール
- 12. 22 …… 側部シール
- 13. 23 …… 幅広シール部
- 14. 24 …… 指掛け孔
- 17. 25 …… 胴部
- 26 …… 注ぎ口側部シール
- 26 …… 注ぎ口
- 27 …… 注出部
- 30 …… 詰め替え容器開口
- 51 …… シール部
- 53 …… 注出部通路
- 56 …… 口栓体
- a …… 切断線

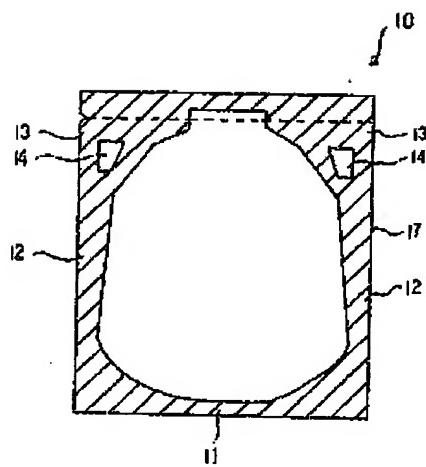
【図5】



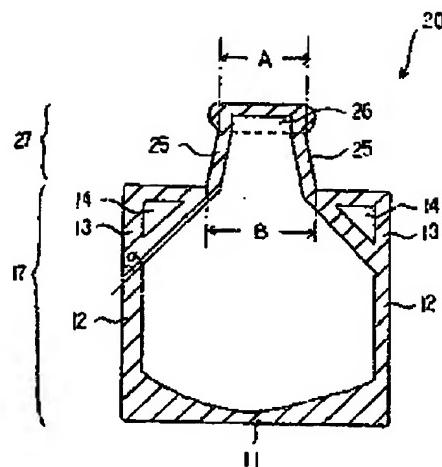
(5)

特開2002-87443

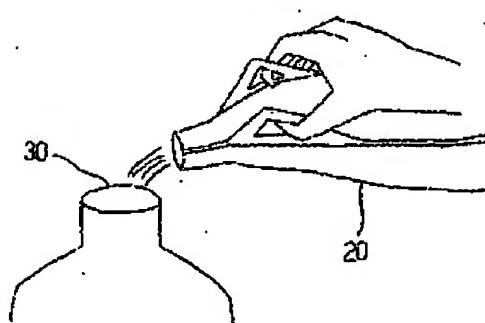
【図1】



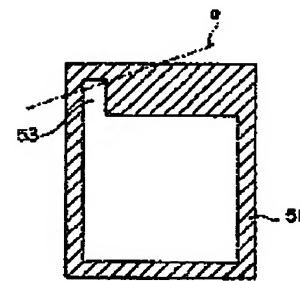
【図2】



【図3】



【図4】



フロントページの続き

F ターム(参考) 3E054 AA05 BA17 BA27 BA36 BA55  
 BC18 EA12 EA23 FA04 FA05  
 FA06 GA04 HJ01 HJ01 HN06  
 HP01 HP02 HP05 HS05